



遺産No. 25-01
佐鎮

★25 佐世保鎮守府関連記念碑群

旧佐世保海軍工廠招魂碑

The Imperial Japanese Navy Sasebo Naval Arsenal Memorial Monument

この招魂碑は佐世保海軍工廠で事故などで亡くなった職員の御霊を慰めるため、大正10年(1921)に佐世保海軍工廠現業員共済会が、境内地を借用して建立したものである。花崗岩で造られた高さ約10mの堂々たるもので、同じような招魂碑は他の海軍工廠にもあったが、佐世保のものは最も大きい。また、戦後に撤去された例が多いなかにあって建立された当時の状況を保っている貴重な存在といえる。この招魂碑は、戦後に佐世保海軍工廠を引き継いで発足した佐世保重工業(株)によって管理されており、佐世保重工業(株)となった後に亡くなった人も合わせて祀られている。

This memorial monument was erected in 1921 by Sasebo Naval Arsenal Blue Collar Workers Welfare Association to honor the spirits of blue collar workers who died in accidents in the arsenal. Though there were similar monuments in other naval arsenals, this dignified granite-made 10m one was the biggest. Some monuments were removed after the Pacific War, but this precious one is still in the same condition as when it was erected. Now this monument is maintained by Sasebo Heavy Industries Co., Ltd. (SSK), which took over the facilities of Sasebo Naval Arsenal after the war. It also honors the spirits of SSK workers who died in accidents after the company was founded.

佐世保之地鎮守府之所在山勢透迤抱海湾艦
 船輻輳為我軍港而海軍工廠巍然壓灣頭艦船
 及兵器之造修一俟干其力是以規模雄偉而從
 職者責亦重矣担子海子陸工務之盛作業之繁
 時或不免危難災厄明治二十二年開廳以來為
 之致死已不為尠是素忠實殉職者此之國士殉
 難於義何擇焉今茲大正十年十月佐世保海軍
 工廠現業員共済會決議為死者投巨資建招魂
 碑勒文顯彰其事以傳于不朽銘曰

西海之濱 流芳千春 巍々貞珉 永示後人

久留米 春山 大坪義方撰文並書

建設委員長	石井禪吉	建設委員	堀田一雄	建設委員	尾崎貞八
建設委員	田原得三	建設委員	和元之助	建設委員	納身卯一
全	佐藤徳松	全	武井春喜	全	金高鶴吉
全	石倉俊寛	全	古賀敏之	全	福島卯一郎
全	今野莊藏	全	森口治三郎	全	西村袈裟吉郎
全	昌谷三雄	全	宗勝一	全	西岡末吉
全	中村英彦	全	山本悟郎	全	永淵豊作
全	根本米次郎	全	中西庄太夫	全	奥村朝二郎
全	小川貞道	全	渡邊代吉		

請負人 金子仙吉

招魂碑裏側に記された銘文。久留米の大坪義方が撰文したもので、招魂碑の由来が格調高い漢文で記されている。以下書き下し文。

「佐世保鎮守府は山地水明が港湾を囲む地に所在する。艦船輻輳する軍港の湾頭に、海軍工廠が聳えている。艦船から兵器の造修に至るあらゆる業務を担ってその規模は雄大。従職者の職責は尊く重く、陸海の工務盛んにして繁忙、危難災厄を免れ難い。明治22年の開庁以来、死亡した人少なからず、その殉職者の忠義は、国土の殉難と何ら変わることはない。ここに大正10年10月、佐世保海軍工廠現業員共済会は決議して、死者の為に巨費を投じて慰霊碑を建造し、銘文を刻してこれを顕彰し、もって千年後までも伝えんとする。即ち曰く、
西海の海に 名声は千年も残るだろう 美しい碑を打ち建て 後の人に示さん」

日本遺産

鎮守府

横須賀・呉・佐世保・舞鶴

（日本近代化の躍動を体感できるまち）

